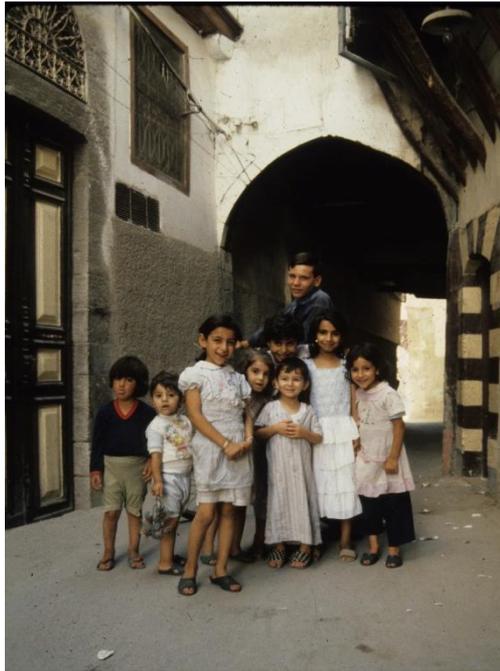
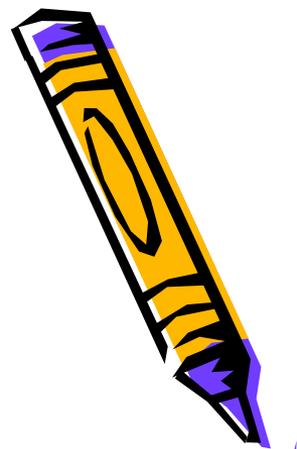


# 5 住まい

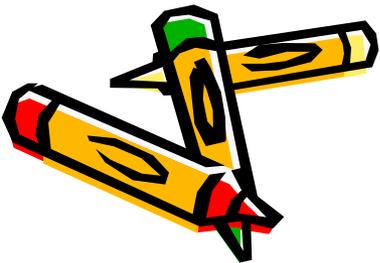
## 都市の街区と中庭式住宅



Damascus



Kuala Lumpur



# ヨーロッパ人の描写

「旅行者は、郊外から市門を入ると、その幻想は消え失せる。ヨーロッパの大都会に慣れたものには、ダマスクスは、汚くて、不規則で、なかば遺跡のように見える。通りは、狭くて曲がりくねっている。家屋は、土と石と木材とが無秩序に折り重なった山のようなものである。・・・しかし、ダマスクスの美しさは、個人住宅にある。その外面と内部の違いほど、コントラストの大きいものはないだろう。内部の壮麗さは、土壁や（道路に）はみ出して揺らいでいる小部屋からは予想もできないものである。入り口は、みすばらしい戸口から、狭く曲がりくねった通路へと通じる。それを通り過ぎると、外向けの中庭に至る。そこは、黒や白の石で舗装され、大理石もまじえ見事にデザインされている。真ん中に噴水があり、（木々の）緑が蔭を落とす。一方には、リーワーンとよばれる半戸外の部屋があり、装飾されたアーチが外側の壁を支えている。（リーワーンの）床は様々な色の大理石で、三方には高座をしつらえ、絹のクッションで覆われている。この中庭に面する部屋とホールは、（家の）主人と男の給仕のためのもので、ここで、主人は、客人を迎え、客人は、そこまでしか入ることを許されない。もう一つの曲がりくねった通路は、ハレムとよばれる、内向けの主たる中庭に通じ、そのドアは宦官によって開けられる。このハレムの中庭に入ったときにこそ、住宅の豪華さが目に飛び込んでくるのである。」

(J.L. Porter, Five Years in Damascus, London, 1870, p.11, 13.)

# 日本人建築家の描写

「この地方の家屋はふつう四角なプランであって中央に中庭をとる。中庭は、大ていは大理石を敷き詰め、その中央に噴水を設けてある。中庭の周囲には部屋が建て回され、前面中央の部分だけが通路になっておる。この周囲の部屋は総二階で、二階には家の中から昇るのではなく、外側に石段を作り、内庭から昇る。客は外から中庭に入ってすぐに階上の客間に上がるという仕組みで、すこしも家の中を客に見すかされるということはない。これがひとつの特色である」（伊東忠太、1867-1954、「叙利亞砂漠」、1904年）

# 地図を読む: Plan Cadastral 1920s



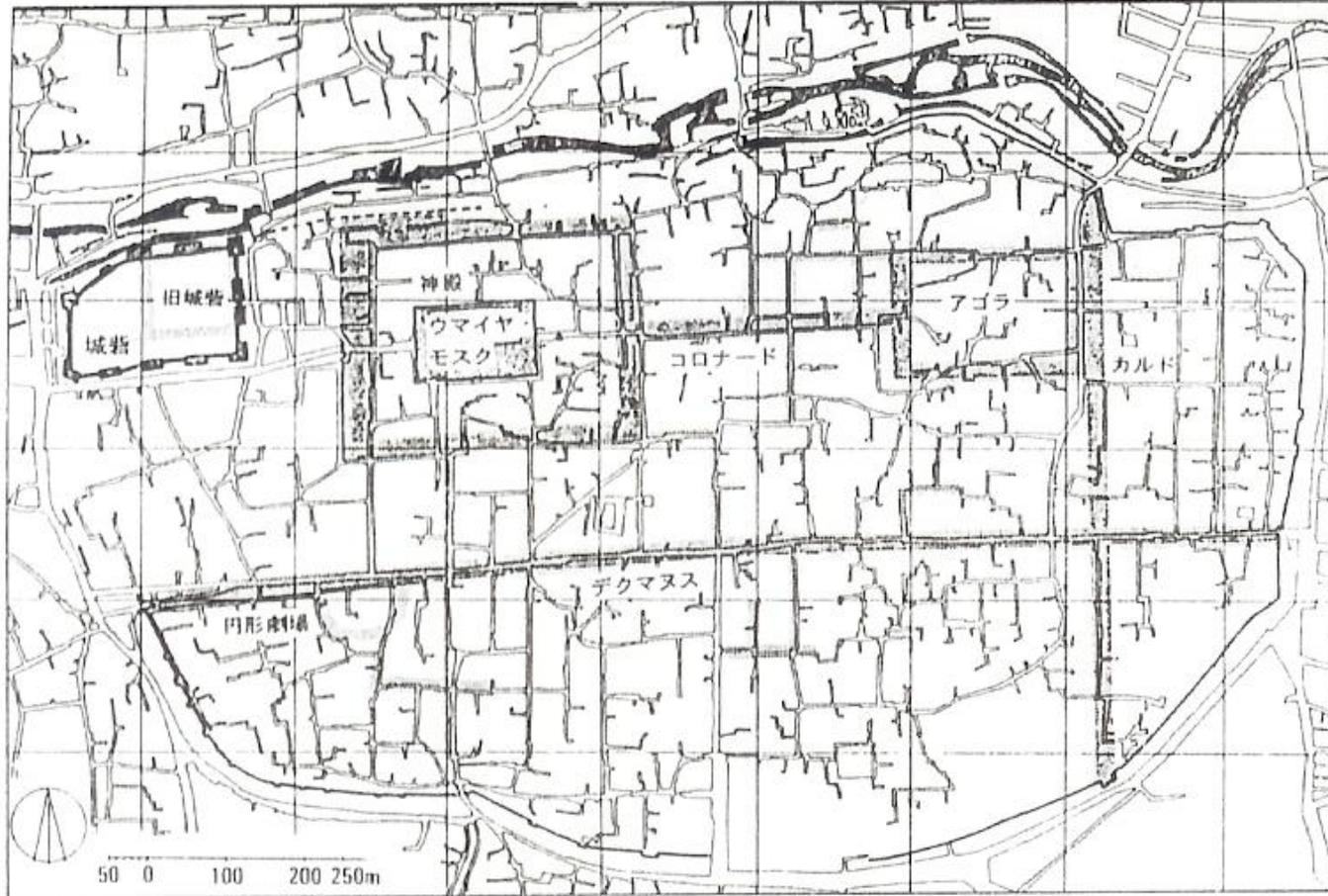
# 地図を読む2 アレッポ



●ムカイヤド家の見取り図

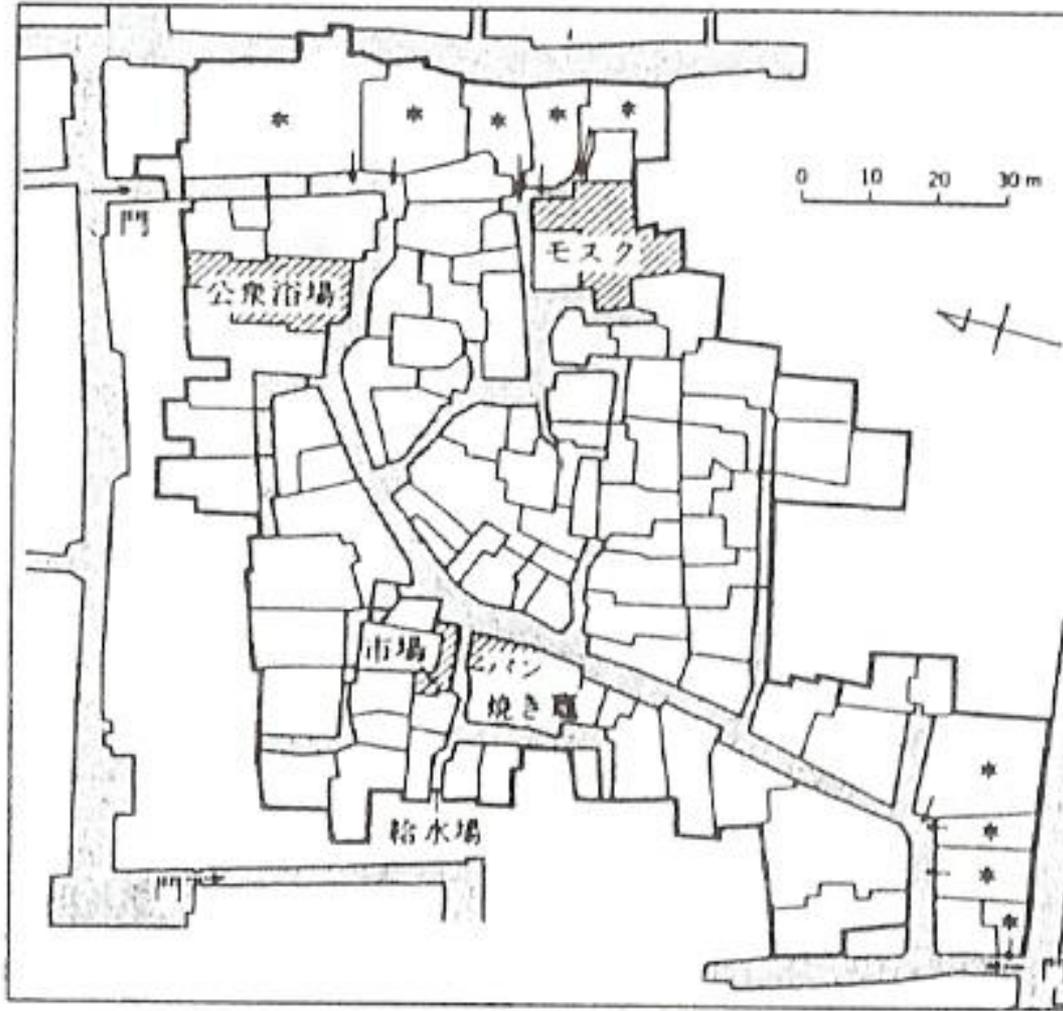
●アレッポの小街区(二十世紀初めの地図にもとづく)袋小路に戸口を開く七軒の家(1~7)が小街区(パウワーベ)をつくる。路地の最奥(4)にムカイヤド家の邸宅がある。網目の部分は、家の中庭を示す。

# 街区と街路網 ダマスクス



●ダマスクス市内　ギリシア・ローマ時代に、東のシャルキー門と西のジャービヤ門を結ぶ東西道(デクマヌス)と南北道(カルド)を幹線とし、グリッド状に交差する道路網がつくられ、神殿とアゴラのあいだはコロナード(列柱道)によって結ばれた。

# 街区とは？ : ハーラ、マハツラ



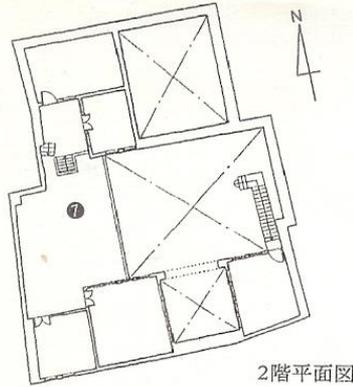
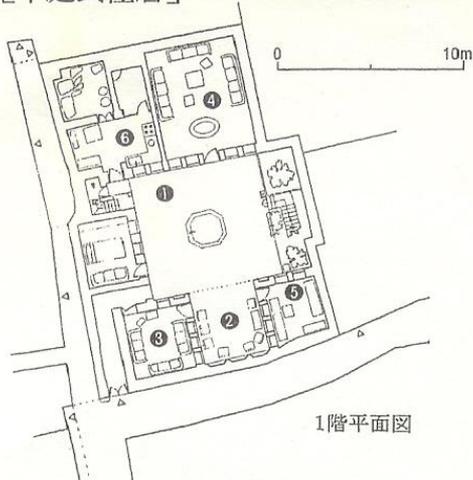
Naqqashat街区  
Sauvaget, 1934

太線 街区の境界

「\* 表通りに面しているが戸口をそこに開かず、裏の路地側に設けている」

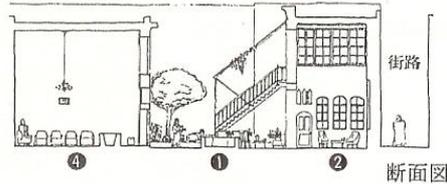
# 中庭式住宅

[中庭式住居]

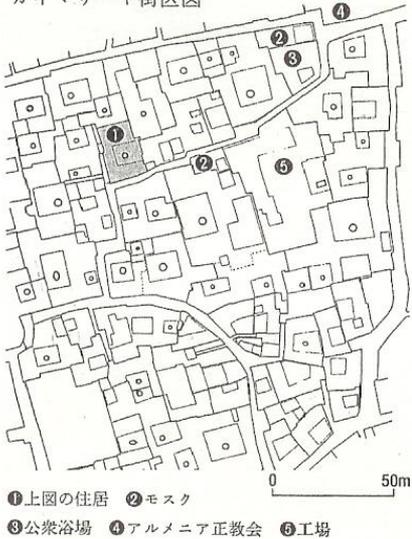


- ①中庭 ②イーワーン ③接客室
- ④冬の居室 ⑤居室 ⑥台所 ⑦テラス

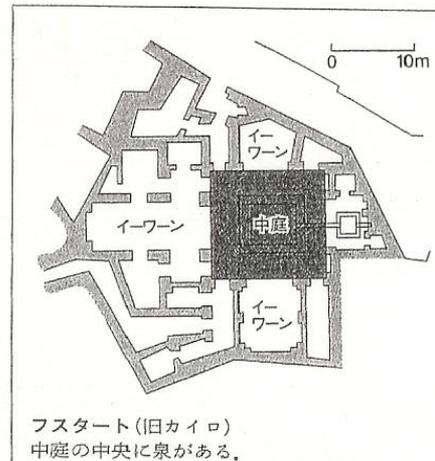
ダマスカス(現代) 約300年前に建築され、9人家族が住む。南側の入口から中庭へと続く通路は折れ曲がり、中庭の中央に噴水が、イーワーンは直射光を避けて北向きに、冬の居室は南向きに配置される。



カイマリーヤ街区図



- ①上図の住居 ②モスク
- ③公衆浴場 ④アルメニア正教会 ⑤工場



フスタート(旧カイロ)  
中庭の中央に泉がある。

- ①中庭を中心
- ②口の字型(周囲が部屋)
- ③小さな戸口、L字の入り口
- ④高い外壁、小さな窓
- ⑤外階段とバルコニー
- ⑥噴水とイーワーン(中庭に開いたホール)

なぜか??

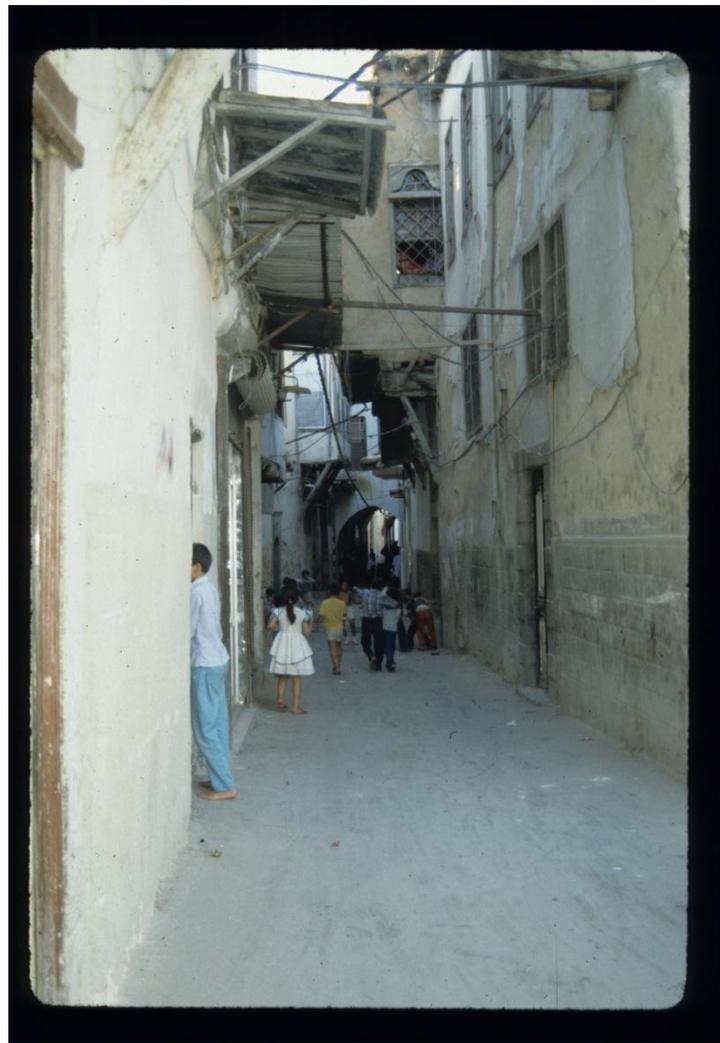
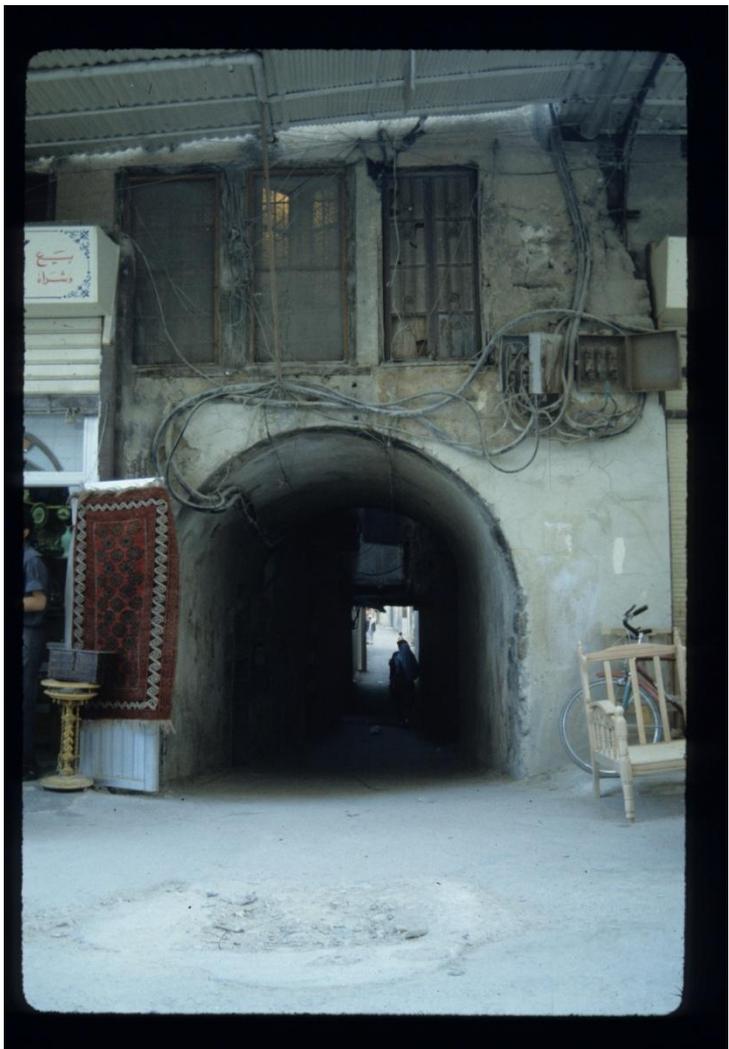
- 理由①
- 理由②
- 理由③

# 戸口、バルコニー、 外階段

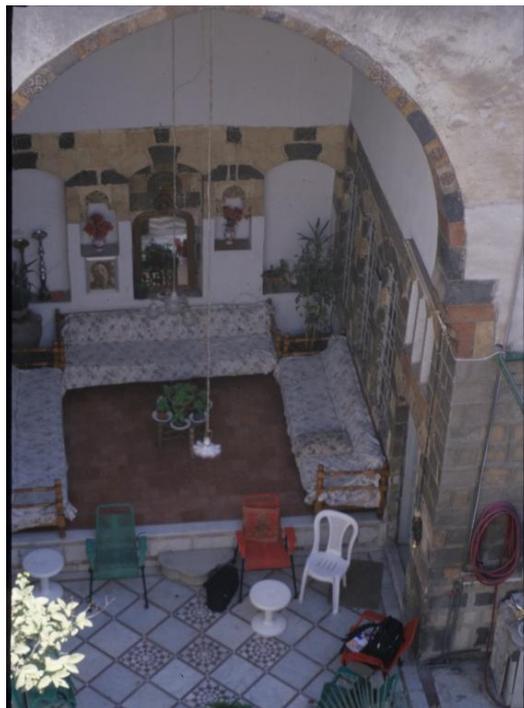


# ハーラの門と路地

## Damascus



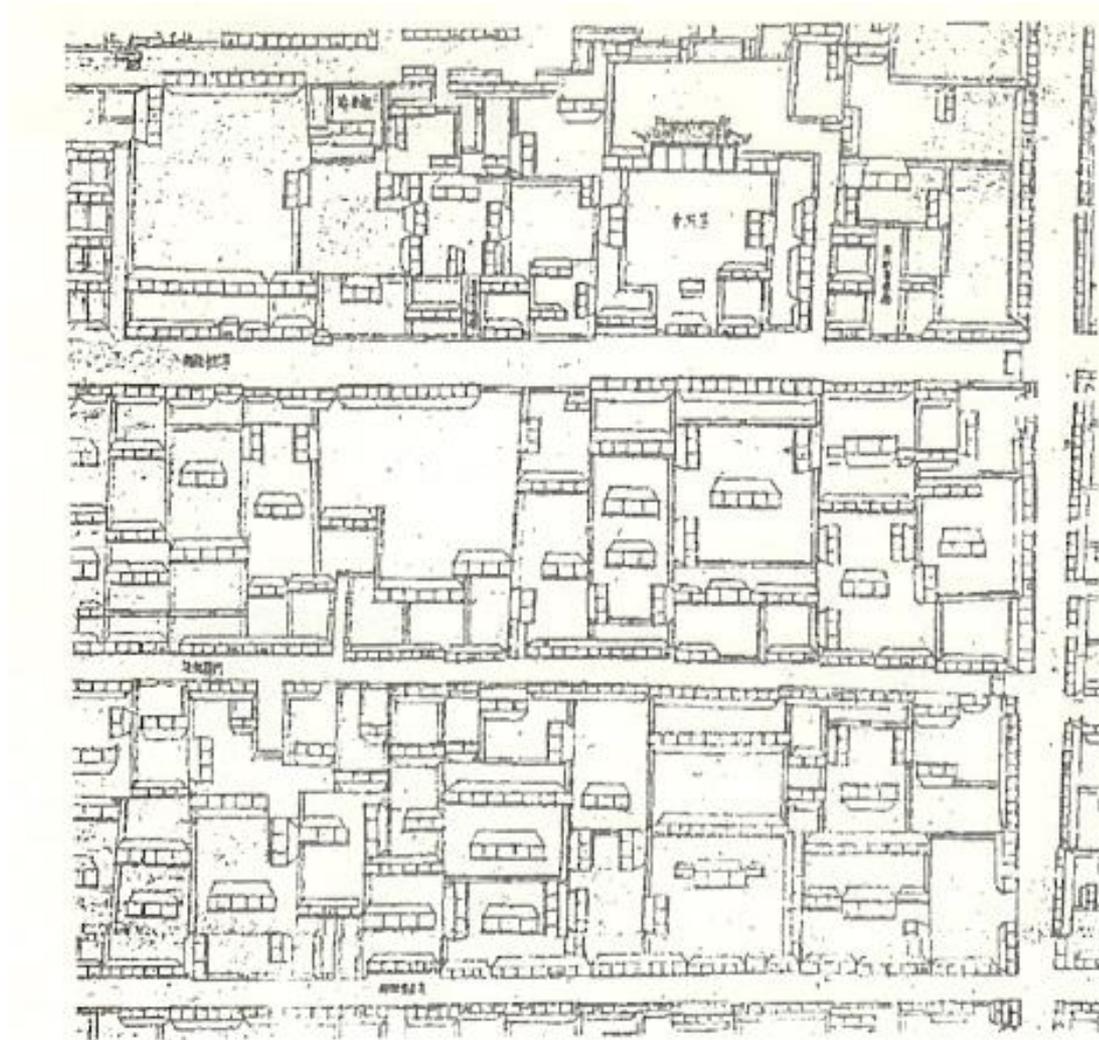
# 中庭式住宅： Shatta家



# Arafan家 イーワーン、客間



# 比較による検証：中国 北京・広州



街区：  
里、巷、街

街路：  
胡同（フートン）

図1 『京城全図』東四付近



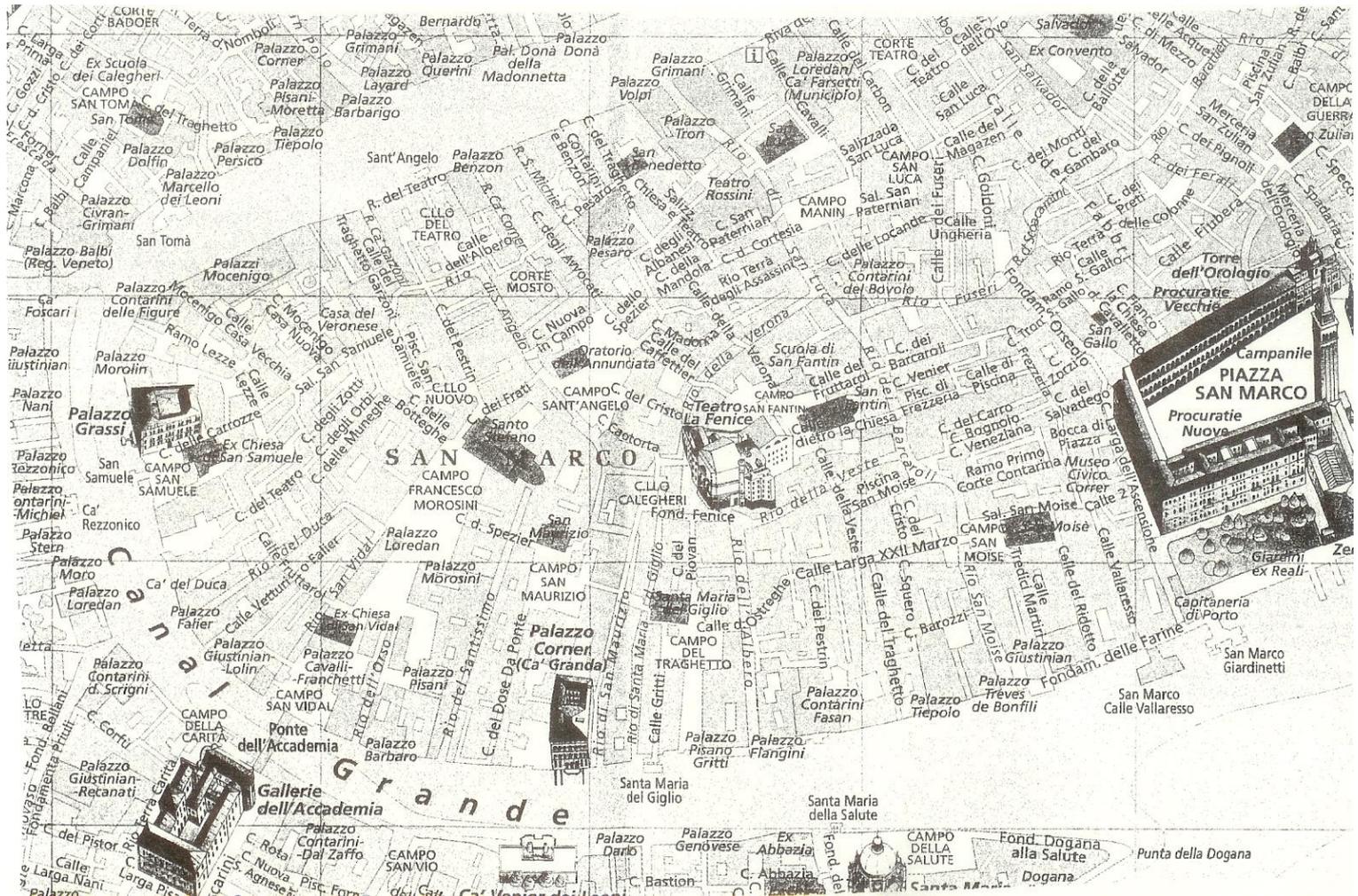
# カシュガル (中国、新疆)



# パリ・ソウル



# ヴェネツィア:カンポと路地



# まとめ：原理の比較

## 1. アラブ・イスラーム都市：

(特徴的現象X) 細街路と中庭式住宅

←原因Y①気候(高温乾燥)②女性隔離(視線)③密集(所有権) ←イスラーム法

## 2. 現象Xが存在する地域：

B: 古代中東 C: 中国・韓国

原因は？

## 3. 日本は？

## 4. より高次のレベルの原理